
経済モデルに基づく政策分析・提言

2021年3月7日

藤井大輔(東京大学)
仲田泰祐(東京大学)

前提

- マクロ経済では、真実がわからないことが多い
 - 例えば、金融政策とインフレ率の関係に関する研究が何十年も前から膨大にある
 - でも、よくわからない
 - ある国である時期に正しかったことは、別の国で別の時期に正しいとは限らない
 - ある国である時期に何が正しかったのかさえ、よくわからないことも多い

経済学研究と経済分析の違い

■ 経済モデル研究

- 真実を解明することを目指す
- **将来の**政策判断・意思決定に役に立つことを目標とする

■ 政策のための現在進行形の経済モデル分析

- 真実が短期間には解明できないことを受け入れる
- その中で、議論のたたき台・新たな気付き・ある程度信頼できる予測・戦略のオプション等を提供することを目指す
- **現在の**政策判断・意思決定の役に立つことを目標とする

経済学研究と経済分析の違い

■ 経済モデル研究

- 一つの論文を完成させるのに大抵1-2年費やす(学術雑誌掲載はさらに数年先)
- 自分の興味のあるトピックを自分の得意なスキルを使って分析

■ 政策のための現在進行形の経済モデル分析

- 一つの分析を完成させるのに費やせる時間は数時間~数か月
- 興味のあるトピックを得意なスキルを活かして分析出来るとは限らない

経済学研究と経済分析の違い

■ 経済モデル研究

- 比較的少人数のチームを組むことが多い。1-3人が多い。
- 論文を発表した後に、内容を更新することはあまりない

■ 政策のための現在進行形の経済モデル分析

- 大きなチームで行うことが多い
- 分析内容を定期的に更新することが多い

経済学研究と経済分析の違い

■ 経済モデル研究

- マクロ経済学では合理的意思決定・市場均衡を考慮するモデルが多い
- 一つの「いい」モデルを構築することを目指す

■ 政策のための現在進行形の経済モデル分析

- 合理的意思決定・市場均衡を考えていないモデルも活躍
- 「使いやすい」モデル構築を目指す
- 幾つかのモデルを併用する

■ 経済学研究と現在進行形モデル分析の境界線は明確ではない

- 藤井・仲田(2021)は現在進行形モデル分析。研究ではない。
- 例えば、久保田(2021)・千葉(2021)は研究だが現在進行形モデル分析の側面も

■ この資料ではモデル分析のみを考察

- モデルに基づかない政策分析・提言が現在進行形で貢献することの方が多い
- コロナ危機後の数多くの経済学実証研究(給付金効果・Go to Travel効果・格差への影響・倒産への影響・行動変容・その他)
- データを整理してわかりやすく可視化するだけでも大きな貢献

- 毎週火曜日分析を更新

<https://Covid19OutputJapan.github.io/JP/>

- 質問・分析のリクエスト等
 - dfujii@e.u-tokyo.ac.jp
 - taisuke.nakata@e.u-tokyo.ac.jp